

「IoT かんたんパック」サービス基本仕様書

本仕様書は株式会社オージス総研（以下「当社」という。）のサービス利用規約（以下「利用規約」という。）と AWS サービス利用規約（以下「AWS 規約」という。）に基づき提供されるサービスである「IoT かんたんパック」（以下、「本サービス」という。）についての内容・レベル・範囲・条件等を定めるものとする。

なお、利用規約と AWS 規約を合わせて、以下「両規約」という。

但し、本サービスにおいて「Sigfox」または「SORACOM」を利用する場合は、両規約に加え、それぞれに対応したサービス利用規約が適用されるとともに、本仕様書においても別紙にて詳細を定めるものとする。また、「HULFT IoT」を利用する場合は、両規約に加え、「HULFT IoT 技術サポート契約条項」および「HULFT IoT 再使用許諾契約書」への同意を必須とする。

1. サービス概要

本サービスは AWS サービスを用いて、当社との間で本サービスを利用する契約が成立した法人又は団体（以下、「契約者」という。）の希望する IoT 基盤を提供するサービスである。

2. 適用関係等

- (1) 契約者は、両規約と本仕様書の条件に従って当サービスを使用する。
- (2) AWS 規約は予告なく変更されることがあり、当社からはその通告を行わない。
- (3) 本仕様書の変更に当たっては、当社は利用規約第 8 条に基づいて実施する。
- (4) 利用規約により提供されるサービスの内容・レベル・範囲・条件と AWS 規約により提供されるサービスの内容・レベル・範囲・条件とが矛盾抵触する場合は AWS 規約のサービスの内容・レベル・範囲・条件が優先される。
- (5) AWS 規約と本仕様書の内容が矛盾抵触する場合は本仕様書の内容が優先される。
- (6) 個別契約事項があり、本仕様書と内容が矛盾抵触する場合は個別契約事項が優先される。
- (7) 当社は、AWS サービスが原因で契約者に生じた損害の賠償義務を負わない。
- (8) 当社は、利用規約の定めにかかわらず、30 日前通知でサービスを停止することができる。

3. 基本サービス

本サービスの基本サービスは、以下の通りである。

サービス名	役割
AWS IoT	<ul style="list-style-type: none"> ・デバイス情報(Thing/Shadow)の登録 ・IoT デバイス用の公開鍵/秘密鍵およびクライアント証明書の発行/管理 ・Pub/Sub 処理の受付および振り分け(Rules Engine)
MessagePub+	<ul style="list-style-type: none"> ・IoT デバイス毎に認証トークン・ユーザの発行/管理 ・Pub/Sub 処理の受付および S3 へメッセージデータ保存
HULFT IoT	<ul style="list-style-type: none"> ・IoT デバイスごとに導入した HULFT IoT Agent の管理 ・HULFT プロトコルによるデータ送信処理の受付および S3 へのメッセージデータ保存
S3	<ul style="list-style-type: none"> ・デバイスからのメッセージデータを受け取り、一時保管
Lambda	<ul style="list-style-type: none"> ・S3 に保管されたメッセージデータを Redshift、または RDS(MySQL)へロード (メッセージデータが S3 へアップロードされる度にイベント駆動で実行) ・メッセージデータ内容をチェックし、閾値を超えた場合に SNS へアラートメールを連携
Redshift または RDS	<ul style="list-style-type: none"> ・S3 からロードされたデータを分析用に保存
JasperReport Server	<ul style="list-style-type: none"> ・Redshift、または RDS 上の分析データを見える化
SNS	<ul style="list-style-type: none"> ・Lambda から連携された情報からアラートメール発報

本サービスが提供する各サービスの想定スペックや仕様条件は以下の通りである。

(1) 通信制御/デバイス認証/端末管理

- ・ AWS IoT、MessagePub+、HULFT IoT から選択可能である。
- ・ AWS IoT、MessagePub+、HULFT IoT とは、接続されたデバイスが簡単かつ安全にクラウドアプリケーションやその他のデバイスとやり取りできるマネージド型クラウドプラットフォームである。
- ・ デバイス登録は構築時に 10 台まで行う。
- ・ それぞれのサービス仕様は下記の通りである。

【AWS IoT パターン】

- AWS IoT がサポートするメッセージデータ送受信プロトコルは MQTT、HTTP、MQTT over WebSockets である。
- 電子証明書(デバイス毎に発行)、AWS IoT デバイス SDK(Embedded C、JavaScript、Arduino Yun、Java、Python、iOS、Android からご希望のもの)

の)、AWS IoT へのアクセス情報(URL、ポート番号、クライアント ID など)を提供する。

- 顧客要件に従い AWS IoT の Rules Engine を 5 つまで定義する。Rules Engine とは、メッセージデータを SQL 文でフィルタリングを行い AWS の他のサービスへ連携する機能である。
 - ◇ フィルタリングは JSON 形式のメッセージデータのみサポートする。JSON 形式以外のメッセージデータは、単純に全メッセージを後続の AWS サービス(S3)に連携する。
 - ◇ デバイスは Publisher 用途を前提とする。
- デバイスプログラムを含むデバイス本体及び、AWS IoT へ接続するデバイス本体側のネットワーク環境は契約者側で用意するものとする。
- デバイスと AWS IoT 間での月間メッセージ数は、1 メッセージのデータブロックサイズ毎に異なり、目安は以下の通りである。
 - ◇ 512 バイトの場合、25 万メッセージとする。
 - ◇ 1.024 バイトの場合、12.5 万メッセージとする。
 - ◇ 5.120 バイトの場合、2.5 万メッセージとする。
- 1 メッセージの最大データブロックサイズは 128KB 以内とする。
- MQTT 仕様は AWS IoT に準拠するものとする。

【MessagePub+パターン】

- デバイスと MessagePub+間のサポート通信プロトコルは HTTP、MQTT、WebSocket である。
- 認証トークン・ユーザ(デバイス毎に発行)と MessagePub+ SDK【C++(C++11 以降)、Java(Java8 以降)、JavaScript】、MessagePub+へのアクセス情報(URL、ポート番号など)を提供する。
- デバイス毎にデバイス登録は必要なく認証トークン・ユーザの組み合わせで認証する。
- EC2 インスタンスタイプは m4.large とする。
- メッセージ処理能力は m4.large インスタンスにて対応可能な能力(メッセージ数：5 件/秒程度)とする。
- スナップショットを日次で取得(1 世代保持)する。
- サーバ構成はシングル構成とする。

【HULFT IoT パターン】

- デバイス (HULFT IoT Agent) と HULFT IoT Manager サーバ間のサポート通信プロトコルは HULFT である。
- デバイスへ導入された HULFT IoT Agent のアクセス管理を提供する。
- 顧客要件に従い HULFT IoT Manager および HULFT IoT Agent を提供する。
 - ◇ 使用可能な HULFT IoT Manager 数は 1 とする。
 - ◇ 使用可能な HULFT IoT Agent 数は 10 とする。
- EC2 インスタンスタイプは t2.medium とする。

- スナップショットを日次で取得(1 世代保持)するものとする。
- サーバ構成はシングル構成とする。

(2) データ収集/保存

- S3 とは、マネージド型のオブジェクトストレージサービスである。
- AWS IoT の場合、Rules Engine の標準機能でフィルタリングされたデータを S3 バケットに保存する。
- MessagePub+の場合、同一サーバ上で稼働する Subscriber がデータを S3 バケットに保存する。
- HULFT IoT の場合、HULFT IoT Manager がデータ受信の後続処理でデータを S3 バケットに保存する。
- バケットに保存するデータ量の目安は以下の通りである。
 - S3 バケットのデータ量は 5 GB 以内とする。
 - S3 通信量は 5 GB/月以内とする。
- S3 バケットに保存したデータは、S3 バケットのライフサイクルオプションで一定期間後に削除する。

(3) イベント処理

- Lambda とは、イベントドリブンで実行されるマネージドサービスである。
- 指定の S3 バケットにデータが保存されるイベントをトリガーに Lambda 関数がリアルタイムに実行され Redshift、もしくは RDS にデータを加工してインサートする。
 - Redshift、もしくは RDS にロードする種類に応じて Lambda 関数を 5 つまで定義する。
 - Lambda 関数は下記の設定(デフォルト)で実行する。
 - ◇ 割り当てメモリ量は 128 MB とする。
 - ◇ 実行時間は 3 秒とする。
 - ◇ 実行合計回数は 266 万回/月とする。
- 指定の AWS IoT の Rule Engine の標準機能で、フィルタリングされたデータをトリガーに Lambda 関数がリアルタイムに実行され、データ内容をチェックした結果、指定の閾値を超えた場合に SNS ヘアラートメール内容を連携する。

(4) データ保管

- Redshift、もしくは RDS(MySQL)から選択可能である。
- Lambda 関数はデータを加工し Redshift、もしくは RDS(MySQL)にインサートする。
 - 契約者環境から直接データベースへ接続しデータ分析・可視化を行いたい場合は、データベース接続用のユーザ/パスワードを連絡する。
 - データベースのテーブル数は 5 つまで定義する。

【Redshift】

- Redshift とは、高速で完全マネージド型、ペタバイト規模のデータウェアハウスである。
 - Redshift インスタンスタイプは dc1.large とする。

- データベース合計容量は 160 GB とする。

【RDS】

- RDS とは、マネージド型リレーショナルデータベースである。
 - データベースエンジンは MySQL とする。
 - RDS インスタンスタイプは t2.micro とする。
 - データベース合計容量は 50 GB 以内とする。
 - データベース通信量は 30 GB/月とする
 - サーバ構成はシングル構成とする。

(5) データ見える化

- JasperReport Server を含め、複数の方法でデータ見える化を行う事が可能である。

【Jasper Studio パターン】

- JasperReport Server とは、データ分析・可視化用の GUI ツールである。
- JasperReport Server のサンプルレポートを 2 パターン提供する。
- JasperReport Server の操作は契約者が行うものとし、使用方法のサポートは含めないものとする。
- レポートのカスタマイズを行う場合、契約者が PC に Jasper Studio を導入し、レポートに必要なファイル(jrxml ファイル、画像ファイル)を作成するものとし、作成したファイルを JasperReport Server にアップロードする。
 - EC2 EBS 容量は 30GB 以内とする。
 - EC2 インスタンスタイプは t2.micro とする。
 - サーバ通信量は 2GB/月とする。
 - 初期構築後にスナップショットを取得する。
 - サーバ構成はシングル構成とする。

【既存 BI ツールに連携、または EXCEL+ODBC ドライバ パターン】

- 契約者環境から直接 Redshift、もしくは RDS(MySQL)のデータベースリソースに接続し、利用する。契約者環境の設定は契約者自身で行うものとする。

(6) 発報

- SNS とは、メール/メッセージング/モバイルなどへの通知用マネージドサービスである。
- Lambda 関数から連携されたアラート内容を、指定のメールアドレスへ送信する。

4. サポートサービス

本サービスのサポートサービスは以下の通りである。

連絡先等の詳細は別紙 1 を参照とする。

(1) サービス概要

- 仕様通りに動作しない場合の契約者からの問い合わせ対応や、正常な操作を行った時に起きたシステムの故障に関する契約者からの問い合わせ対応を実施する。
- AWS 起因の不具合や AWS 都合の定期メンテナンスをお知らせする。
- JasperReport Server のサポートは対象外とする。

5. 運用サービス(オプション)

小規模での本番運用に必要な以下の運用作業を提供する。

(1) 監視

- AWS CloudWatch により下記の監視を行う。
- アラート検知時にはメールもしくは電話で連絡を行う。
- 詳細な監視項目や閾値は、別途監視設定シートを参照とする。

監視対象	監視内容
AWS IoT	Publish/Subscribe 数などを監視
MessagePub+	ノード、ポートなどを監視
HULFT IoT	
S3	データ容量、オブジェクト数を監視
Lambda	実行回数、実行失敗、処理時間などを監視
Redshift or RDS	CPU 使用率、DB 容量、IOPS などを監視
JasperReport Server	ポート、URL レスポンスなどを監視
SNS	送信失敗などを監視

(2) 障害対応

- 受付時間および対応時間は、24 時間 365 日である。
- 障害時の通知は、当社から契約時の指定連絡先まで電話又は E-mail で通知する。
- サーバ障害によるサービス停止が発生した場合、当社にて再起動もしくは、最新のスナップショット/AMI を使用し、ベストエフォートで復旧を試みる。

(3) デバイス追加登録

- 月に 10 台まで追加のデバイス登録を行う。

6. その他条件

本サービスのその他の条件は以下の通りである。

項目	内容
最低利用期間	1日 但し、HULFT IoTを利用する場合は1ヶ月とする。
最大利用期間	なし
利用期間算定単位	毎月1日～月末までとする。 月途中の利用契約内容変更の場合は、日割計算にて対応する。 変更前後の契約条件の該当期間について計算し、合算する。 <日割計算式> サービス月額料金÷30日×利用日数（円未満切捨て） 但し、HULFT IoTを利用する場合は日割計算ではなく、解約月までの月額料金を全額請求する。
支払い方法	当社は、毎月末締め、翌月10営業日以内に請求書を発行する。契約者は請求書到着後、請求書到着月末までに当社指定の銀行口座へ振り込むこととする。
利用期間の延長手続き	利用契約は、原則自動延長とし、内容変更の連絡がない場合は、引き続き同内容で契約を延長する。
利用契約の解約手続き	IoTかんたんパック利用契約の解約手続きの期限は解約希望日の10営業日前までとし、その期限までに連絡があれば、該当日でサービスを終了する。サービス停止のための費用は発生しない。SORACOM（セルラー版、LoRaWAN版）とSigfoxネットワークの解約手続き期限は各々の利用規約に記載のとおりとする。
環境構築	申し込み完了の連絡から10営業日以内で構築する。
契約内容変更	申し込み完了の連絡から10営業日以内で契約内容を変更する。対応内容により、サービスの停止や別途の費用が発生する場合がある。月途中の定常的なリソース変更については可能だが、別途相談とする。
契約内容確認	契約内容が遵守されていることを確認するため、監査を実施することがある。その結果、契約内容と異なっていた場合は契約内容の変更やサービス提供の停止などの措置を講じることがある。
納品物	JasperReport ServerおよびDBのID/パスワード、Jaspersoft Studioの簡易手順書を納品する。

7. セキュリティ対策

契約者はデバイス側に対しセキュリティ対策を施すものとする。当社は対策内容に対し一定の助言を行うが、対策の不備により生じた直接あるいは間接の損害についてはいかなる責任も負わない。

8. 禁止行為

契約者の故意・過失を問わず、両規約や関連するサービス規約に違反する行為が確認された場合、当社の判断で契約者・運用連絡責任者への通知なく該当のサービス停止処置を行うことがで

きることとする。

9. 利用料金

(1) 料金

- 別途当社が提示する見積書で定めた料金とする。

(2) 料金の変更

- 為替変動や AWS、Sigfox、SORACOM、HULFT IoT の料金変更等の要因により、当社が料金を変更する場合、変更が適用される 30 日前までに、契約者が指定したメールアドレス宛にメールで通知する。

10. サービスレベル

AWS のサービスレベルアグリーメントに従うものとする。加えて、Sigfox、SORACOM、HULFT IoT を利用する場合は、それぞれのサービスレベルアグリーメントに従うものとする。

<変更履歴>

2016 年 7 月 22 日

2016 年 10 月 21 日

2017 年 11 月 1 日

2018 年 7 月 19 日

2018 年 8 月 7 日

別紙 1

1 サポートサービス仕様

各サービスにお申込みいただくと、サポートサービス（お問い合わせ）をご利用いただけるようになります。原則として、運用責任者連絡先に登録いただいた方からのお問い合わせのみ受け付けます。運用ご担当者が変更になった場合は運用責任者連絡先一覧更新をお願いいたします。

(1) 連絡先・サービス時間

サービスによってご利用いただけるサポートサービスが異なります。詳細はサービス仕様書を参照してください。

サポートサービス	方法	連絡先	受付時間	対応時間
障害時対応	電話	06-4393-2622	24 時間 365 日	
使用上の問合せ	メール	To : cloud_support@ogis-ri.co.jp	24 時間 365 日	営業日 (※) 09:00-18:00
運用責任者連絡先一覧更新	メール	To : cloud_support@ogis-ri.co.jp Cc : Support@iNETVASS.com	24 時間 365 日	営業日 (※) 09:00-18:00
作業依頼	メール	To : Support@iNETVASS.com Cc : cloud_support@ogis-ri.co.jp	24 時間 365 日	作業内容に基づき対応
料金に関する質問	メール	To : cloud_billing@ogis-ri.co.jp	24 時間 365 日	営業日 (※) 09:00-18:00

※営業日は次の通りです。

土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に定める休日、年末年始（12 月 30 日から 1 月 4 日まで）および 5 月 1 日を除く日。

※複数サービスをご利用いただいている場合は運用責任者連絡先一覧を共通管理いたします。(サービス毎に運用連絡責任者を定義したい場合は別途ご相談ください。)

<変更履歴>

2015年4月1日

2017年2月1日

2017年10月16日

2017年11月1日

別紙 2

1 1. 「IoT かんたんパック for SORACOM (セルラー版)」仕様

「IoT かんたんパック」に、SORACOM の提供する SORACOM Air for セルラーを利用した通信サービスを含めて、当社がサービス提供するものを「IoT かんたんパック for SORACOM (セルラー版)」(以下、「本サービス」という。) という。

1 2. 追加サービス

本サービスにおける「IoT かんたんパック」からの追加サービスは、以下の通りである。
全てにおいて、AWS および SORACOM の定めるサービス条件を逸脱する提供は不可となる。

サービス名	役割
SORACOM Air for セルラー	・SIM 情報の登録/管理 ・3G/LTE に対応したデータ通信
SORACOM Funnel	・AWS IoT サービス利用に限りデバイスからのデータを直接転送

本サービスが提供する各サービスの想定スペックや仕様条件は以下の通りである。

(1) データ通信

【SORACOM Air for セルラー】

- 3G/LTE に対応したデータ通信(SMS は含まない)を提供する。
- 対象エリアは日本国内のみとする。
- 通信キャリアはドコモとする。
- 速度クラスは s1.fast (通信速度 2Mbps) とする。
- ご契約中の SIM は常時通信可能な状態での提供とする。(一時休止や利用再開などは含まない)
- 通信時間帯の速度制限などの制約は無く、通常時の通信サービスは常時同じ通信速度での提供とする。
- SIM の送料については、SIM を発注することに当社から別途請求とする。

(2) データ連携

【SORACOM Funnel】

- AWS へのアクセス情報 (IAM ユーザの認証情報) を登録することで、デバイスからのデータを AWS IoT サービス利用時に限り直接転送する。
- 顧客要件に従い、SORACOM Funnel のデータ連携設定を 1 つのみ定義し、全デバイスへ同一設定を適用する。

1 3. 追加運用サービス(オプション)

本サービスにおける「IoT かんたんパック」からの追加運用サービスは、以下の通りである。

(1) 監視

- アラート検知時にはメールもしくは電話で連絡を行う。
- 詳細な監視項目や閾値は、別途監視設定シートを参照とする。

監視対象	監視内容
SORACOM Air for セルラー	サービス障害情報などを監視
SORACOM Funnel	サービス障害情報などを監視

1 4. その他条件

追加サービスのその他の条件は以下の通りである。

項目	内容
回線初期費用	1回線目の回線初期費用は本サービスの初期費用に含まれるものとし、2回線目以降の回線初期費用は1,100円/回線とする。
回線月額費用	1回線目の回線月額費用は本サービスの月額費用に含まれるものとし、2回線目以降の回線月額費用は900円/回線とする。
利用期間算定単位	毎月1日～月末までとする。 月途中の利用契約内容変更の場合は、日割計算にて対応する。 変更前後の契約条件の該当期間について計算し、合算する。 <日割計算式> サービス月額料金 ÷ 30日 × 利用日数 (円未満切捨て)
納品物	SIMを納品する。

<変更履歴>

2018年7月19日

別紙2発行

2018年8月7日

別紙 3

1 5. 「IoT かんたんパック for SORACOM (LoRaWAN 版)」仕様

「IoT かんたんパック」に、SORACOM の提供する SORACOM Air for LoRaWAN を利用した LoRa ゲートウェイおよび通信サービスを含めて、当社がサービス提供するものを「IoT かんたんパック for SORACOM (LoRaWAN 版)」(以下、「本サービス」という。) という。

1 6. 追加サービス

本サービスにおける「IoT かんたんパック」からの追加サービスは、以下の通りである。
全てにおいて、AWS および SORACOM の定めるサービス条件を逸脱する提供は不可となる。
通信制御/デバイス認証/端末管理のサービスについては、「IoT かんたんパック」サービス基本仕様書に記載の AWS IoT のみ選択できるものとする。

サービス名	役割
SORACOM Air for LoRaWAN	・LoRa ゲートウェイの提供/登録/管理 ・LoRa に対応したデバイスからのデータ取得 ・3G/LTE に対応したデータ通信
SORACOM Funnel	・AWS IoT サービス利用に限りデバイスからのデータを AWS IoT に直接転送

本サービスが提供する各サービスの想定スペックや仕様条件は以下の通りである。

(1) データ通信/デバイス認証/デバイス管理

【SORACOM Air for LoRaWAN】

- LoRa ゲートウェイ (所有モデル) である「LoRa インドアゲートウェイ AL-020」を提供する。
- LoRa 対応デバイスからのデータを取得し、3G/LTE に対応したデータ通信によってデータをクラウドへ送信する。
- 対象エリアは日本国内のみとする。
- 1 回に送信可能なデータサイズ (ペイロード) は 11 バイトとする。

(2) データ連携

【SORACOM Funnel】

- AWS へのアクセス情報 (IAM ユーザの認証情報) を登録することで、デバイスからのデータを AWS IoT サービス利用時に限りへ直接転送する。
- 顧客要件に従い、SORACOM Funnel のデータ連携設定を 1 つのみ定義し、全デバイスへ同一設定を適用する。

17. 追加運用サービス(オプション)

本サービスにおける「IoT かんたんパック」からの追加運用サービスは、以下の通りである。

(1) 監視

- アラート検知時にはメールもしくは電話で連絡を行う。
- 詳細な監視項目や閾値は、別途監視設定シートを参照とする。
- デバイス（LoRa インドアゲートウェイ）自体は監視の対象外とする。

監視対象	監視内容
SORACOM Air for LoRaWAN	サービス障害情報などを監視
SORACOM Funnel	サービス障害情報などを監視

18. その他条件

追加サービスのその他の条件は以下の通りである。

項目	内容
LoRaゲートウェイ初期費用	1台目のLoRaゲートウェイ初期費用は本サービスの初期費用に含まれるものとし、2台目以降のLoRaゲートウェイ初期費用は93,000円/台とする。
LoRaゲートウェイ月額費用	1台目のLoRaゲートウェイ月額費用は本サービスの月額費用に含まれるものとし、2台目以降のLoRaゲートウェイ月額費用は34,000円/台とする。
利用期間算定単位	月途中の利用契約内容変更の場合は、日割計算ではなく、解約月までの月額料金を全額請求とする。
納品物	LoRaゲートウェイを納品する。

<変更履歴>

2018年7月19日

別紙3発行

2018年8月7日

別紙 4

19. 「IoT かんたんパック for Sigfox ネットワーク」仕様

「IoT かんたんパック」に、SMK もしくはオプテックスの提供するデバイス、および京セラコミュニケーションシステムの提供する Sigfox を利用した通信サービスを含めて、当社がサービス提供するものを「IoT かんたんパック for Sigfox ネットワーク」（以下、「本サービス」という。）という。

20. 追加サービス

本サービスにおける「IoT かんたんパック」からの追加サービスは、以下の通りである。

全てにおいて、AWS および京セラコミュニケーションシステムの定めるサービス条件を逸脱する提供は不可となる。

通信制御/デバイス認証/端末管理のサービスについては、「IoT かんたんパック」サービス基本仕様書に記載の AWS IoT のみ選択できるものとする。

サービス名	役割
SMK 評価ボード	・温度、湿度、気圧、照度、加速度などの情報取得 ・Sigfox に対応したデータ送信
ドライコンタクトコンバーター	・接点信号/パルス信号の情報取得 ・Sigfox に対応したデータ送信
Sigfox	・デバイス登録/管理 ・AWS IoT サービス利用に限りデバイスからのデータを AWS IoT へ直接転送

本サービスが提供する各サービスの想定スペックや仕様条件は以下の通りである。

(1) デバイス

- ・ SMK 評価ボード、もしくはドライコンタクトコンバーターから選択可能である。
- ・ SMK 評価ボード、およびドライコンタクトコンバーターとは、通信方式 Sigfox でデータ送信可能なデバイスである。
- ・ それぞれのサービス仕様は以下の通りである。

【SMK 評価ボード】

- Sigfox 対応デバイスである「評価ボード EVAK-WF923」を提供する。
- 内蔵の温度、湿度、気圧、照度センサーの情報を 1 度に取得可能である。
- 内蔵の加速度センサーを使用して落下、衝撃を検知可能である。
- 外部接続機器からの UART 通信（AT コマンド）で 12 バイトまでのデータを取得可能である。
- 内蔵の接点センサーを使用してパルスの積算値を取得可能である。
- アナログ入力電圧（2 チャンネル）の情報を取得可能である。
- 取得した情報を 12 バイトのデータとして定期的に Sigfox の基地局へ送信する。

【ドライコンタクトコンバーター】

- Sigfox 対応デバイスである「ドライコンタクトコンバーター OWU-101」を提供する。
- 内蔵の接点センサーを使用してパルスの積算値、もしくは接点の切り替わり情報を取得可能である。
- 取得した情報を 12 バイトのデータとして定期的に Sigfox の基地局へ送信する。

(2) データ通信/デバイス認証/デバイス管理

【Sigfox】

- Sigfox 対応デバイスの登録/管理を行うものとする。
- Sigfox 対応デバイスからのデータを取得できる。
- AWS へのアクセス情報 (IAM ユーザの認証情報) を登録することで、デバイスからのデータを AWS IoT サービス利用時に限り直接転送する。
- 対象エリアは日本国内のみとする。
- 1 回に送信可能なデータサイズ (ペイロード) は 12 バイトとする。
- 送信回数は 140 回/日以内とする。

2 1. 追加運用サービス(オプション)

本サービスにおける「IoT かんたんパック」からの追加運用サービスは、以下の通りである。

(1) 監視

- アラート検知時にはメールもしくは電話で連絡を行う。
- 詳細な監視項目や閾値は、別途監視設定シートを参照とする。
- デバイス (SMK 評価ボード、およびドライコンタクトコンバーター) 自体は監視の対象外とする。

監視対象	監視内容
Sigfox	サービス障害情報などを監視

2 2. その他条件

追加サービスのその他の条件は以下の通りである。

項目	内容
回線初期費用	1回線目の回線初期費用は本サービスの初期費用に含まれるものとし、2回線目以降の回線初期費用は2,500円/回線とする。
回線更新費用	利用開始の翌年度以降、毎年利用開始月に、1,000円/回線の更新料金が発生する。 但し、3年ごとには別途1,500円/回線が発生する。
納品物	申し込み時に選択したSigfoxデバイスを納品する。

<変更履歴>

2018年7月19日

別紙4発行

2018年8月7日